農業発展の道を求めて

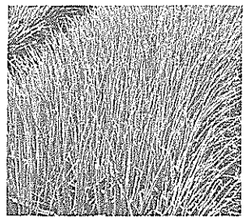
盛大に行われた岩村農協70周年記念式典

岩村農協が創立70周年

水稲、野菜の栽培が盛んで、特に青ネギの生産で有名な岩村地区。この地区の農業を支える岩村農協が、創立七十周年を迎え五月十四日、集出荷場で盛大に記念式典が行われました。

そもそも、明治四十五年「岩村信用組合」として発足し、昭和二十三年に現在の「岩村農協」となりましたが、経営は苦しく一時事業閉鎖する事態も起こりました。しかし、小松重亀組合長を先頭に、組合員の協力とともに農協再建に取り組み、現在のような総合農協として発展しました。

また、その間農協合併問題が発生しましたが、行政区域が分かれている事情などから、合併はしませんでした。


有名な岩村のネギ栽培

式典では、まず小松組合長が、「今後も農業の発展、生活の向上に、一層努力精進したい」とあいさつし、来賓の祝辞の後、功労者の表彰を行い式を終わりました。

その後祝賀会に移り、三百人近く集まった組合員は、昔を懐かしんだり、農業談義に話がはずんでいました。

全校生徒がサツマイモ植え

土と緑に親しむ学校農園

小湊大

大湊小学校（細川義彦校長、生徒百九十二人）では、このほど学校東側の農地七アールを借りて、「学校農園」を開設しました。

この試みは、「子どもたちに農作物の栽培管理などの体験学習を通じて、土と緑に親しむふれあい教育の場にしてもらおう」と、県農協中央会、市農協前浜支所の指導で始められたものです。

五月二十日午後、各学年ごとに別れて近所からもらったサツマイモの苗を、先生や農協の営農指導員の指導で一人二～四本植えました。

すでにこの農園には、タイモ、スイートコーン、イチゴ、ジャガイモが植えられており、子どもたちは、早くも収穫に夢を膨らませていました。

学校農園でサツマイモを植える子どもたち

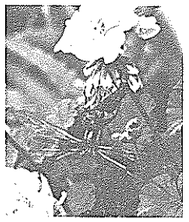
街中で〝オニヤンマ〟ふ化

最近では、野原でもめったに見ることがない「オニヤンマ」が、街中でふ化した。＝写真

後免町一丁目（旧西町）。山地さん宅前の鉢植えの花に止まり、初々しい羽を広げていた。

辺りは、小さな水路が流れているが、アスファルトとコンクリートで草の一本もないところ。

「街中で生まれるなんて、もう四十年くらい住むが、初めて見ることです」と、山地さん一家は温かく見守っていた。


めずらしいオニヤンマ

親子クイズ 139

ご家庭で話し合って答えてください。答えは、この広報に出ています。

■もんだい・大湊小学校では五月二十日、○○○○にサツマイモを植えた。

■しめきり・6月15日

■おくり先・〒783　南国市大埇甲二三〇一　南国市役所内広報委員会親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所部落名・氏名・年齢・職業を書いてください。

■賞品・特賞千円＝三人、残念賞（記念品）＝五人

第138回正解者発表（敬称略）

（応募総数48通）

■こたえ・（ハ）（ク）（タ）（ウ）

■特賞・千円＝三人

細川寿万子（十市）

中田智久（白木谷）

栗田敏代（里改田）

■残念賞・（記念品）＝五人

岡崎光枝（久礼田）山本茂子（東崎）沖本美智子（岡豊）北垣房子（下野田）岡林保江（久礼田）

牛乳をもっと食べよう

市農協酪農部が料理教室

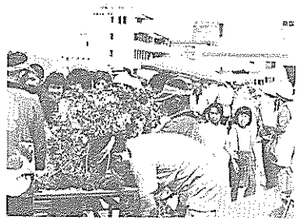
牛乳料理に取り組む婦人たち

バランスのとれた栄養食品＝牛乳をもっと食べよう――と、市農協酪農部（島内勉部長）が、同婦人部（東條美芳部長）の協力を得て、牛乳料理の講習会を五月十八日、農協会館で開きました。

一般に、牛乳は飲むだけという考えの人が多く、冬になるとダブツキが出てきます。そこで、栄養価の高い牛乳をもっと料理に生かし、消費拡大を進めようと行われたものです。

メニューは、牛乳をたっぷり使った親子蒸し、コーンスープ、即席ヨーグルトの三種類。酪農家の奥さんや、婦人部の役員さんらは、それぞれ手分けをし、各料理に取り組みました。

現在、市内に酪農家は五十二戸、乳牛数は約千百頭にのぼっています。市農協で酪農を担当する西本さんは、「過剰投資さえしなければ、経営は安定性があると思います。これからも酪農家と協力し、牛乳の普及活動に積極的に取り組みたい」とのこと。



苗木配布に長い列

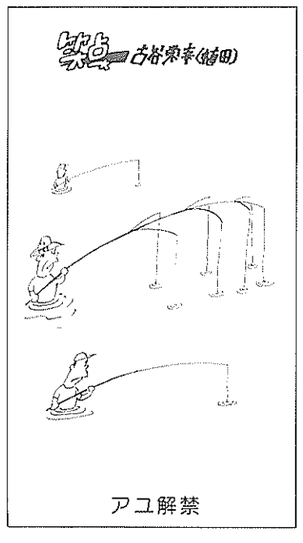
土曜市

さつき・食品祭り

土曜市恒例の「さつき・食品祭り」が五月二十一日、多彩な催し物で盛大に行われました。＝写真

会場は、ヨモギのもちつき、チャリティーオークション、もち投げなどの他に、人気の高いさつきの苗木無料配布が行われ、配布時間には約二百人の列が続いていました。

また、さつき愛好家の出品による審査会も開かれるなど、五月晴れに恵まれたこの一日、季節の花や野山の幸を買い求める市民でにぎわっていました。



南国歌壇

夜半さめてきける時雨のおと寂か
亡き垂乳根の夢を追いつつ
浜改田　清水愛川

幼子の記憶の中に住む鬼か
たしかに牙の描かれてあり
立田　島田美津子

種苗にさざ波寄せる南風
向かい歩めば野菫乱る
下野田　徳久まさみ

南国柳壇

開かるること無くなりしシャッターの　小さき工場に竹散りそそぐ
西山　岩貞健一郎

喪の多き季すぎ果てて紫陽花の
薄みどりとも見えず花咲く
大埇　岡田　史

筋通す辯役人のなれのはて
車から物投げ捨てる無神経
岡豊町　橋田井波
後免町　隅田俊作

独り者慣れぬ手先で米をとぎ
初節句主役の孫は泣きつづけ
十市　森尾　環
古市　島田稔子

南国俳壇

燈明の残りて昏るる遍路寺
瓣の間に緋色沈めてゐし牡丹
竹内隆造（梵鐘句会）

風の来て藤の花房揺きぬ
渓深く青葉を降らす竹の笛
高橋　蛙（〃）
林　広裕（〃）

野炭の孤独くずれる砂時計
鷺白し爪の紅まで花冷えす
和田幸郎（岩村句会）
山岡みよ（〃）
北岡高子（〃）